

石破地方創生大臣の来賓挨拶 平成 28 年 1 月 19 日 於；東京ガーデンパレス

お招きいただきありがとうございます。

地方創生大臣の石破でございます。齋藤農水省副大臣からご挨拶をいただくところでございますがお許しを得て先にご挨拶をさせていただきます。是非齋藤さんの話を聞いてください。経済産業省出身で我々が野党の時は環境部会長もやっていただきました。今や農林部会長から農林副大臣と示唆に富んだお話しがあらうかと思えます。世の中はスマップだけではないのでありまして、今参議院の予算委員会で補正予算の可決がなされたところでございますが、恐らくこれからのキーワードは人口急減ということでもあります。ジェットコースターに例えますと、一両目が急降下するところに差し掛かったぐらいで、二両目、三両目の人は何が起きるかよく分からないことだと思えます。今の出生率が続き今のままの死亡率が続くと、1 億 2000 万人いる我が民族は 200 年後には 1391 万人と 10 分の 1 に減り、300 年後には 423 万人と 30 分の 1 に減ります。生きていないから知らないと言わないでください、2900 年には 4000 人、3000 年には 1000 人やがてなくなることにあいながっているわけでございます。ただ今会長からご紹介ありました「人を健康にする施肥」はなかなか示唆に富んだ論文であります。食料安全保障とはなにか？もう一つは栄養安全保障とはなにか？この定義を間違えると議論はめちゃくちゃになります。食料安全保障とは何も自給率を上げる為の指標ではありません。これをどのように考えるかということでございますが、あれを見ますとここ 50 年足らずの間に世界の人口は倍に増えました、穀物生産は 3 倍に増えました、肥料の消費量は 5 倍に増えましたということでもあります。これから日本は恐ろしいくらいで人口が減るのであって、そうすると農業というのをどう考えるか、農地をどう考えるのか、農業者をどのように考え、そして TPP について色々な議論がありますが、日本の色々な農業技術というものを世界のためにどう貢献させていくかということを大真面目に考えていく、別に不真面目に考えているわけではないですが、そのことを中心に考えていかないと政策は多分間違えるのであろうと思っております。間違いなく人口急減期に入ります。そうならないように、私がやっている地方創生は、東京の人と富を世界中や日本中にばら撒くと言っているわけではありません。ただ東京は消費する町ですから、食料を作れるわけではなく、再生可能エネルギーを作れるわけではない、出生率は全国で断トツに最低である。そこに人と富がずっと集まり続けるというのは国家としてのサステナビリティがなくなります。これをどうするのが地方創生のお話しでございます。ですから今までの前提が全部崩れますので、色々な政策はすべて考え直していかねばなりません。民間の方々にもお知恵を借りていかなければなりません。そういう意味でこの 60 周年の年に、私どもとして虚心坦懐に謙虚に皆様方のお話しを聞きたいなというふうに思っているということでもあります。日の高いうちに飲む酒ほど美味しいものはありませんので、お話しはここで終わります。有難うございました。